

2024年6月16日 聖霊降臨後第四主日礼拝説教
「育ち続ける命の種」(マルコ4章26～34節)

○マルコ4章26～29節について

救い主イエスは譬えを用いて「神の国は、土に蒔かれた種のように」と語られ、種に命があって、よい土に根を下ろすなら、人の手を借りずとも、実は結ばれることを示された。

○イザヤ55章11節のみことば

「わたしの口から出るわたしの言葉もむなしくは、わたしのもとに戻らない。それはわたしの望むことを成し遂げわたしが与えた使命を必ず果たす。」

☞あなたの心に命を芽生えさす種が、みことばであり、そのうちにある赦しが、神に向かう生ける命を養い育てる。

今日のみことば：マルコ4章28節

「土はひとり^{つち}でに^み実を^{むす}結ばせるのであり、まず^{くき}茎、次に^{つぎ}穂、そしてその^ほ穂には^{ゆた}豊かな^み実ができる。」

問：どうすれば、よき土（みことばが育つ心）となるのか。

○マルコ4章31節のみことば

「(からし種は) 土に蒔くときには、地上のどんな種よりも小さいが、蒔くと、成長してどんな野菜よりも大きくなり、」
キリストが蒔かれる種、〈みことば〉も、からし種のような小さきものかもしれないが、この種は、信じる〈あなた〉によみがえりの〈みわざ〉を現わすほどの大きな力がある。

「わたし(パウロ)は植え、アポロは水を注いだ。しかし、成長させてくださったのは神です。」(Iコリント3章6節)

☞みことばを選び、それに従う力と助けを求め、成長させてくださる神に心を向け、〈みわざ〉の訪れを待ち望もう。

※神の子イエスが、あなたのうちに蒔く生ける種を育み、心に芽生える〈赦しの喜び〉を大きくしようと願われる。